

■ 国立成育医療研究センター配置図



国立成育医療研究センターのご案内

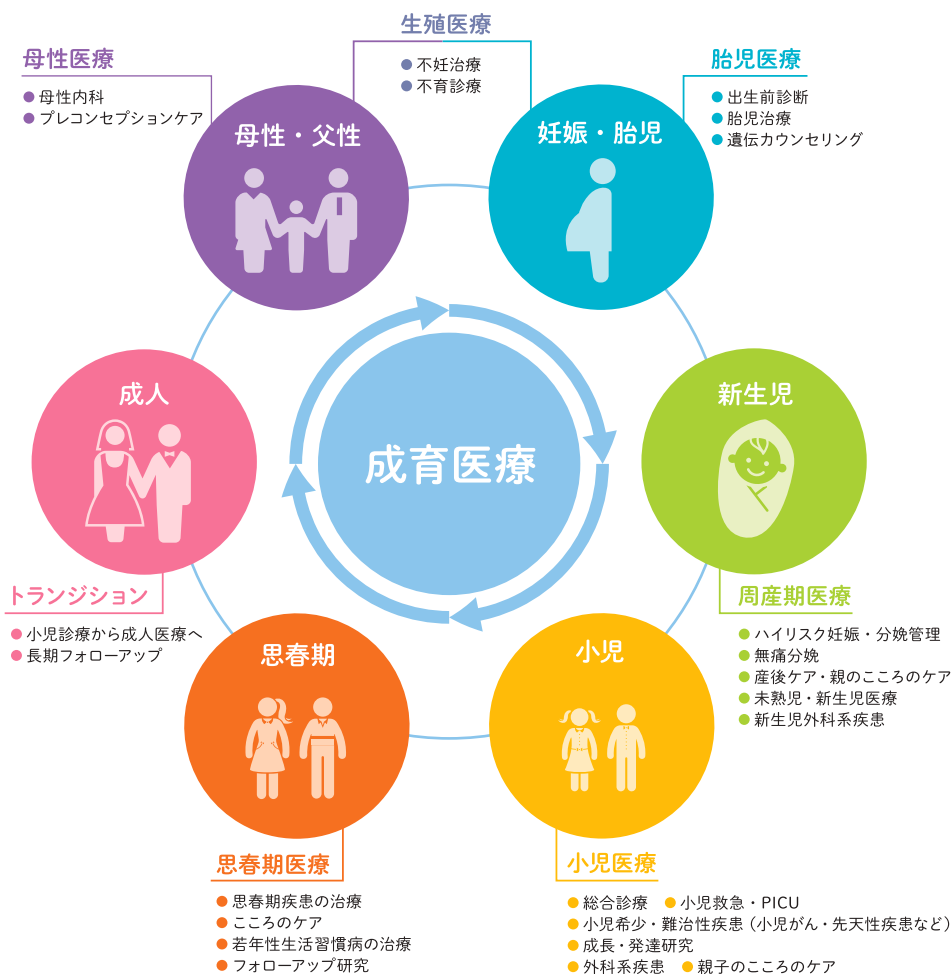


国立成育医療研究センター

国立成育医療研究センターは、受精・妊娠にはじまり、胎児、新生児、乳児、幼児、学童、思春期、大人へと成長・発達し、次の世代を育む過程を、総合的かつ継続的に診る医療＝「成育医療」を行っています。

また、病因・病態の解明や克服のための研究を行うとともに、健全な次世代を育むための社会の在り方について提言しています。

国レベルで高度な医療を築いていく中心的な存在である国立高度専門医療研究センターとして、先進的で安全・安心な医療を社会に提供します。



理念

病院と研究所が一体となり、健全な次世代を育成するための医療と研究を推進します。

沿革

- 2002年 | 国立大蔵病院と国立小児病院を統合し、国立成育医療センター開設
- 2010年 | 独立行政法人 国立成育医療研究センター設立
- 2015年 | 国立研究開発法人 国立成育医療研究センターへ移行

基本方針

1 臨床

成育医療のモデル医療や高度先駆的医療を提供します。

2 研究

成育医療の調査・研究を推進します。

3 教育・研修

成育医療の専門家を育成し、啓発普及のための教育研修を行います。

4 情報発信

成育医療の情報を集積し、社会に向けて発信します。

データでみる成育

職員数

合計 **1,834**人

※常勤・非常勤合算

医師など

396人

研究職員など

207人

看護職員

721人

医療技術職員

189人

事務職員など

321人

外来延患者数

221,701人/年
1日平均912.3人

入院延患者数

135,133人/年
1日平均370.2人

分娩件数

2,270件/年

手術件数

総件数
5,081件/年

<産科>

838件

<外科>

589件

<眼科>

470件

<耳鼻咽喉科>

353件

<整形外科>

462件

など

生体肝移植 症例数

世界最多
症例数

約**60~70**例/年

世界トップレベル
術後生存率

<10年生存率>
90.4%

救急患者数

19,385人/年

医療研究センター

論文の累積被引用回数

58,772件 (2007~2021年)

英文論文数

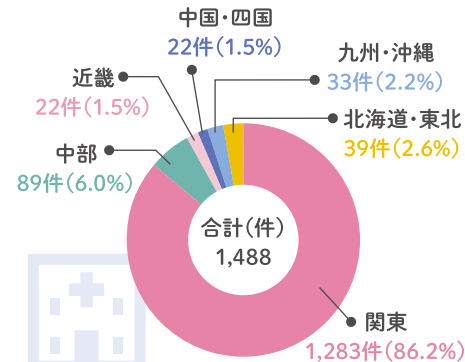
452件/年

和文論文数

34件/年

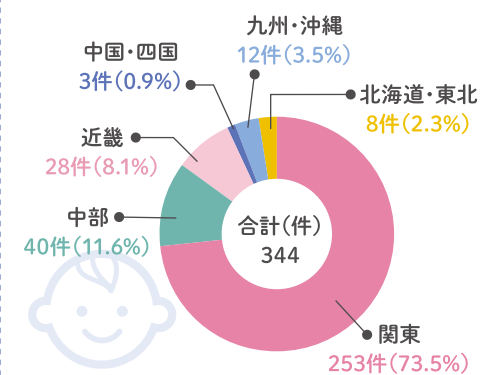
患者紹介件数

大学病院より **1,488**件/年



※総数に直接搬送は含みません

小児専門病院より **344**件/年



※総数に直接搬送は含みません

世界的な成果

世界初

ヒトES細胞由来の
肝細胞をヒトへ移植
(2020年)

世界初

ES細胞から
ミニ腸作製
(2017年)

『30 Most Technologically Advanced
Children's Hospitals in the World』
アジアから唯一選出
(2016年)

世界初

アレルギー疾患の
発症予防法を開発
(2014年)

■ 病院概要 ■

病院では、小児医療、母性・父性医療および関連領域を包括する成育医療を、総合的・継続的に行っています。

診療科：28科

内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、心療内科、小児外科、矯正歯科、小児歯科、病理診断科、麻酔科

病床数：490床

外来（一日平均）：約1,000名

■ 特徴・取り組み ■

- 世界トップレベルの小児医療
全ての領域での小児高度専門医療の提供
- 日本最大規模の産科と母性内科
- 最先端の医療ケア

周産期・母性診療・NICU

母体・胎児集中治療管理室（MF-ICU）、新生児集中治療室（NICU）を備え、「総合周産期母子医療センター」に認定されています。

常時、母体・新生児搬送受入体制を有し、リスクの高い妊娠に対する医療、高度な新生児医療などを提供し、年間の分娩数は2,200件を超えています。



産科麻酔部門は米国産科麻酔学・周産期学会により、世界トップレベルの産科麻酔施設COE（Center of Excellence for Anesthesia Care of Obstetric patients）に認定されました。

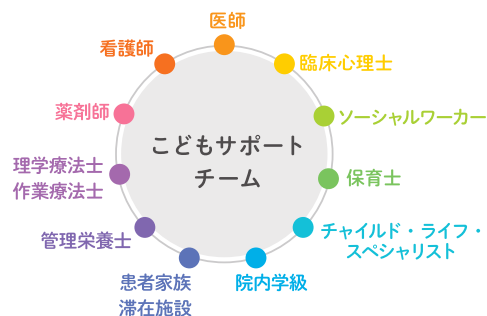
小児救急・PICU

年間1,000例を超える重篤な小児患者の治療を行う日本最大の小児集中治療室（PICU）を有しています。救急診療科と連携し、病因、病態、基礎疾患に関わらず日本全国から重症の子どもを受け入れ、小児の心肺蘇生・外傷診療などの救命救急診療からプライマリケアまで、幅広い診療を行っています。



小児がん

脳脊髄腫瘍、固形腫瘍、白血病などを診療しています。臨床研究の推進、新規治療の開発、長期フォローアップ体制の確立などを通じて、日本の小児がん診療をリードしています。医師、看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、保育士、ソーシャルワーカーなど沢山の職種が、チームで患者さんやご家族をサポートしています。



小児がん拠点病院であり、全国15の拠点病院を取りまとめる小児がん中央機関に指定され、2019年には「がんゲノム医療拠点病院」にも指定されています。「がんゲノム医療」は、がんの患者さんのがん細胞におきている遺伝子の異常を調べ、最も効果的な治療を選ぶ医療です。さらに、白血病やリンパ腫の新たな治療薬である「CAR-T細胞療法(キムリア)」の提供可能施設にも認定されています。

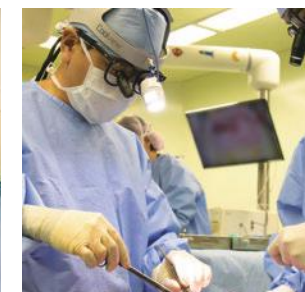
アレルギー

アレルギー疾患の中心拠点病院として、国内外のアレルギー診療のモデルとなる質の高い医療を提供するとともに、それを実現するために必要な臨床研究の推進を行っています。2017年に世界アレルギー機構からCenter of Excellenceに指定され、世界のアレルギー診療と研究のリーダーとして指導的役割を担うことが期待されています。



移植

世界最多の症例数（年間約60～70例、10年生存率90.4%）の小児肝移植や、腎移植、小腸移植を実施しています。また、2019年に国内で5番目の「11歳未満の小児心臓移植実施施設」に認定されました。新生児症例や、他臓器障害合併症例、移植まで急を要する劇症肝不全例、移植後の管理が困難な代謝性肝疾患にも積極的に移植医療を提供しています。



TOPICS

健全な次世代を育む

～プレコンセプションケアから産後ケアまで～

プレコンセプション（受胎前）ケアから不妊診療、不育診療、出生前診断、胎児治療、無痛分娩そして、産後のケアにも力を入れています。

プレコンセプションケア

将来の妊娠・出産を前提としたヘルスケアを総合支援する『プレコンセプションケアセンター』を2015年に日本で初めて開設しました。また、すべての方に妊娠前に知っておいていただきたい最新の情報を発信しています。



産後ケア

当センターで出産された方は、退院後、そのまま専用個室で継続して3泊4日の産後ケア（コアラサポート）を受けることができます。心理療法士によるカウンセリング、赤ちゃんのスキンケア、健康相談、育児相談などにより出産後の育児不安へのサポートをしています。



研究所

研究所では受精からヒトとして成長する過程での疾患成立のメカニズムの解明と、診療・治療法の開発をしています。また、健全な次世代を育むため、社会がどのような仕組みであるべきかを提言しています。

研究所を支える先進的研究部門

研究を臨床の場にフィードバックして安全性と有効性を確認しながら、高度な医療技術の開発を行っています。

小児血液・腫瘍研究部

実験動物管理室

分子内分泌研究部

RI 管理室

免疫アレルギー・感染研究部

マスキリング研究室

成育遺伝研究部

小児慢性特定疾病情報室

ゲノム医療研究部

先端医療開発室

システム発生・再生医学研究部

高度先進医療研究室

薬剤治療研究部

視覚科学研究室

周産期病態研究部

好酸球性消化管疾患研究室

社会医学研究部

再生医療センター

政策科学研究部

バイオバンク

医療機器開発部

衛生検査センター

共同研究管理室

エコチル調査研究部

■ 主な取り組み ■

小児科・周産期のゲノム・エピゲノム解析

研究所と病院が連携し、次世代シーケンサーなどの最新技術を駆使したゲノム・エピゲノム解析に取り組んでいます。



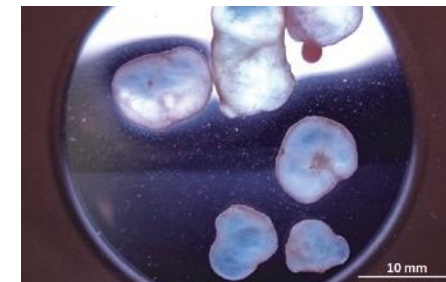
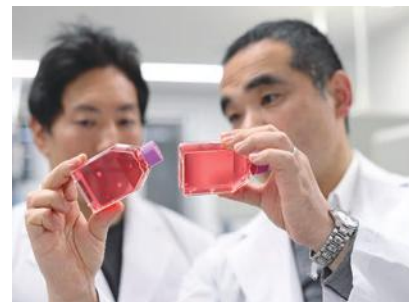
生殖医療

受精の分子メカニズムの解明および不妊の原因究明、予防法、新しい診断・治療法の開発を目指し、基礎研究を行っています。



ミニ腸

ミニ腸をヒトES細胞およびiPS細胞から試験管内で創り出すことに世界で初めて成功しました。ミニ腸は、先天性の病気や炎症性腸疾患に対する画期的な治療法開発の手段として期待されています。



ヒトES細胞から作製したミニ腸（10mm程度）

臨床研究センター

臨床研究センターは、病院、研究所と連携し、病気の診断や発見、予防、治療、および患者さんの生活の質の向上のために、臨床研究・治験の企画立案、実施の支援などを行います。それらを通して、先端かつ信頼される医療を推進しています。

小児治験ネットワークの構築・運営

全国の医療機関が加盟する小児治験ネットワークを、当センターが事務局となり運営しています。このネットワークは、小児領域での治験等を推進（治験等の質およびスピードを向上）させるなど、小児に使用できる医薬品等（薬事承認を取得）の拡大・充実を図り、小児医薬品等の早期開発に向けた受け皿として機能しています。



小児製剤室での小児用製剤の開発

薬には、有効とされる病気や使用方法・投与量が定められていますが、多くが大人のために開発され、子どものために開発されることが少ない状況です。その状況を改善するため、当センター内に設置された施設で、小児用製剤の開発を行っています。



医師等研究者を対象とした実践的トレーニングの継続開催

質の高い臨床研究を実施する人材育成を目的に、多くの実践的トレーニングコースを実施しています。疫学・臨床研究・生物統計に関する知識、経験が豊富な各専門のスタッフが、若手医師を中心とした医療従事者等に研究計画の立案から実施に関する一貫したトレーニングを提供しています。

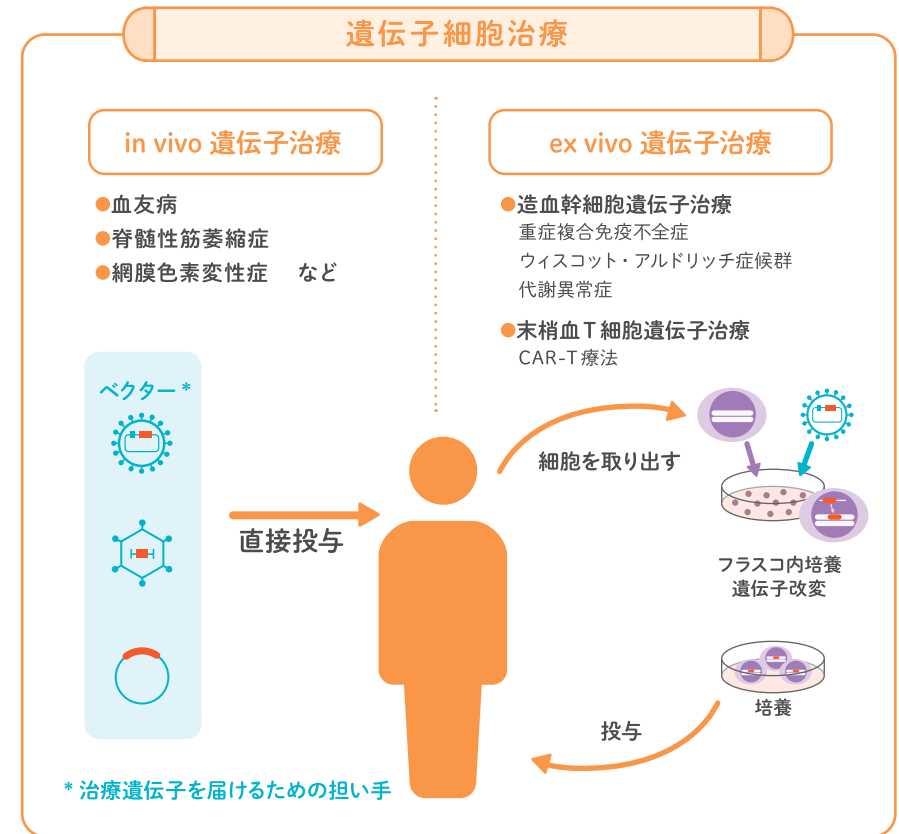


今、注目の取り組み

遺伝子細胞治療推進センター

国立成育医療研究センターは、2019年4月に遺伝子細胞治療推進センターを発足させました。

遺伝子細胞治療は、現在、注目されている最先端医療の1つであり、小児科領域でも充実が求められています。遺伝子細胞治療推進センターでは、遺伝子細胞治療の実施や研究開発に加え、外部（製薬企業や医療機関）からの相談・コンサルテーションに応じています。



寄付について

当センターは、国立研究開発法人として国から運営交付金を頂いておりますが、交付金は研究開発などを行うためのもので、病院運営は基本的に診療報酬などの医業報酬で賄うことになっています。診療報酬だけでは、全国から集まる難病の子どもたちに質の高い医療や、より良い環境を提供することが難しいのが現状です。そのため、皆さまからのご寄付が必要です。

■ 国立成育医療研究センターの3つの寄付 ■



アイノカタチ基金（成育基金）

先進的な医療への支援、病院内環境整備、人材育成支援などのために活用

研究基金

応援したい研究・研究者を特定する寄付金で、それぞれの研究や研究者などに限定して活用

もみじの家基金

重い病気を抱え自宅でケアを受けている子どもと家族が、穏やかなひとときを過ごすことのできる施設「もみじの家」の運営に使用。（施設整備、物品購入、人件費など）

頂いた寄付はご希望に応じて、これら3つの基金のいずれかに入れ、用途にあった利用をさせていただきます。

ご寄付の申し込み

寄付申込書（趣意書）をホームページからダウンロードできる方は右記QRコードから入手いただき、ご記入の上、当センターへ郵送もしくはFAXでお送りください。

ダウンロードできない方は、国立成育医療研究センター 財務経理部 財務経理課 寄付係までご連絡ください。（代表電話：03-3416-0181）

■ アイノカタチ基金の主な使い道 ■

ファシリティドッグ（マサ）の導入

2021年7月、当センターはファシリティドッグを本格導入しました。ファシリティドッグは、病院で活動するために専門的にトレーニングを受けた常勤の犬です。ハンドラーと呼ばれる、犬をあつかう研修を受けた臨床経験のある看護師とともに、入院患者の治療や療養生活に関わります。

当センターのファシリティドッグ、マサは、ラブラドルレトリバーの男の子です。毎月延べ100名を超える患者さんと、触れ合い・遊び・治療の手伝いなどで一生懸命働いてくれています。マサの導入により、これまでお薬を飲むのが苦手だった患者さんが「マサと一緒に飲む！」と前向きになったり、ベッドから降りてなかなか歩けなかった患者さんが歩くことができたり、とてもいい成果が見られます。当初は限られた病棟だけでの活動でしたが、現在はリハビリテーション室など活動の幅を広げています。

ファシリティドッグの活動を継続していくためには、犬の飼育管理費用（定期的な獣医師の検査と診察、ドッグトレーナーによるフォローアップ他）、ハンドラーの人件費などで、年間1,000万円の費用が必要となります。皆さまにご支援いただければ幸いです。



☰ クレジットカードでのお申し込み

クレジットカードで簡単に寄付ができるプラットフォームシステムを運用しております。

現在、VISA、JCB、AMEX、マスターカード、ダイナースクラブカードに対応しております。

※その他のカードについては未対応ですので、ご了承下さい。

寄付について
詳細はこちら



<https://www.ncchd.go.jp/donation/>